

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

2002年 11月15日 発行

26

上州ぐんま
の日独
親善

発行者 平形義人
発行所 ぐんま日独協会

〒377-0007
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方
☎0279-22-0149 FAX 0279-24-6867



(f1)

ぐんま日独協会02年度総会「観桜と禅を学ぶ会」
2002.4.14 渋川プリオパレスにて



'02年 ぐんま日独協会 クリスマス会のご案内

日時 12月8日(日) 14:00~17:00
場所 群馬会館(1F) 大理石の間
会費 金4,000円

内容 1. 木管アンサンブル
「ベルジュラック」の演奏
2. クリスマス ソング
3. キャンドル サービス
4. 会食・懇談・スピーチ
5. みんなで踊ろう フォークダンス

申し込み ご出席になれる方は、同封の振込み
用紙にお書込みの上、11月30日(土)ま
でに、郵便局で手続きして下さい。出
欠用のハガキは使用しません。

今年は、経費の関係上プレゼント交換はいたし
ません。

■ハイマート26号 目次……頁 写真fotoご案内

☆表紙 2002年度総会………	1	(f0,f1)
☆渋川伊香保大会………	2	(f2)
☆Dr.アメルンク文化部長講演………	3	(f5)
☆公開講演 花井 清先生………	4	(f4)
☆ドイツ交友録………	5	(f1,f3,f4,f5)
☆ドイツ災害へ義援金………	6	(f6)
☆Sommer Treffen………	7	(f7)
☆ぐんま日独ニュース………	8	(f8,f9)

Glück im Unglück (不幸中の幸)

ぐんま日独協会会長 平 形 義 人

- (I)ハイマート25号に掲げた様にHenrik Schmiegelow大使の親任第一の約束で、大使の御来県の前意を情りなく整えた我々は、突然の大使の帰国で奈落の底に落された観でありましたのに、関係各所に御挨拶致しましたところ、却って、深い御理解を頂いて、ぐんま日独の存在を認められたこと。
- (II)異常な暖冬にて、梅桜の開花が予想よりも早まり、観桜を眼目にした双林寺会場、第12師団見学コースを、渋川プレオパレスと伊香保見晴台に変更したところ、渋川市、伊香保町の門扉が広くドイツに向かって明け放たれたこと。
- (III)その象徴とも思える出来事は3月24日にはハンブルクの桜の女王Annemaria Mezeiと日本の桜の女王松丸友紀嬢が渋川・伊香保を訪問したこと。(f0)
- (IV)(財)日独協会織田・花井両常務理事から「ベルツの碑」の入沢

- 達吉先生の拓本が贈与されたこと。(f4)
- (V)今年初の催の“Sommer Jreffen”が、沼田の角田副会長の提唱でBella-Vitaで催されたが大成功で、二百余人の参加者あり(21/Sep.)
- (VI)1/Ⅲの宮古島(明治六年ドイツ商船難破・救助で当時ウィルヘルム皇帝より「博愛の碑」が寄贈されて以来親独の島。)にての全国連合会に会長参加。
- (VII)1/Ⅶ、日独協会50周年記念事業ラウ独大統領来日歓迎記念が帝国ホテルに於て秋篠宮殿下台臨の下に催され当協会を代表して、平形会長、島田卓爾副会長、対馬良一副会長、鈴木克彬事務局長が参列す。(f5)
- (VIII)明年はぐんま日独15周年記念にドイツ親善旅行を計画、日独の更なる“Glück幸運”を求めたい。

2002 ぐんま日独協会・総会 ——観桜と禪に親しむ会——

(f2)

4月14日、渋川市のプリオパレスにて渋川市立北中のプラスバンド(指揮福島桂先生)演奏の中を会員達は日独の小旗を振って、駐日ドイツ大使H・ジュミーグロー代理アメルンク文化部長ご夫妻をお迎えした。セレモニーでは、北中プラバンドの演奏による両国歌をバリトンの福田朋英理事が厳粛に力強くうたい、一同もこれに和した。

続いて島田副会長から主賓及び(財)日独協会花井清常務、織田正雄常務理事、福田博行評議員、宮藤宏事務局長、とちぎ日独会長橋本孝、木暮渋川市長、板倉議長、羽鳥国際交流協会会長、ぐんま日独平形会長、佐藤副会長の紹介があって、記念撮影(f1)ののちなごやかな昼食となった。

午後の公開講演会では対馬副会長の司会で大雄山最乗寺住職石附周行禅師の講演があり“坐り直せば仏の姿”が禪の修学のまとめとして述べられ、日常の心構えの大切さを伺うことができた。

花井常務からは「日独協会を背負った人々」と題して、長井長義、入澤達吉、三井高陽、御三方を掲げての興味深いお話を伺った。また、入澤・三井両先生の貴重な肉声の録音も聴かせていただいた。

日本語講演の間、アメルンク文化部長ご夫妻には今や渋川市名所となったシャンソン館の芦野安館長の御招待にて日本一のシャンソンを聴き、次に桑原巨守夫人の御説明で市立巨守美術館を後援会長角田副会長に御案内して頂きました。

アメルンク文化部長から別掲の様な懇切なるメッセージ発表があり、帰京後再び自筆の御礼状に接し、益々の日独関係の緊密強化を促されました。

ホテルロビーでは白波瀬茶道会社中のお薄のご接待があり、また子持村の飯塚文二氏のコンニャクおでんのお振舞もあった。

五時前、ホテル金太夫のバスのお迎えがあり、伊香保町の駅での歓迎を受け、記念撮影(f2)ののち、ロープウェイで見晴台にのぼる。頂上駅から展望台に至る右手の標識をつけてた広場にキャンベラオークが来賓に依り記念植樹された。之は日独親善が樹齢千年と言われるオーク樹に育るためである。

午後7時よりホテル金太夫の大広間の日独懇親の夕べの舞台正面には能の鏡板の松と並んで、天井にも届かんばかりの大きな「ベルツ先生の碑」の拓本が掲げられた。之は写真にある如く、昼間の大会の席上、織田・花井両常務理事より、入澤達吉先生の直系の令孫医師(皮膚科)



(f0)



入澤達吉先生(日独協会会員)秘蔵のもとを(財)日独協会を経て、ぐんま日独に表装を新にして永久保存する様、贈られたものである。(f4)司会の佐藤副会長のドイツ語スピーチの後、宝生流の会員仕舞捏々平形義人、半部窪田由美子、他星野隆宏、須藤知昭、に依る仕舞、ドイツ民踊レントラーが鈴木克彬、和子夫妻に依り演舞、続いて、石北徳司会員の武者小路実篤の「心」の吟詠で、会場は日独の文化に陶醉。石坂伊香保町長のご挨拶、松本議長、千明観光、関口旅館組合、高橋商工会長の紹介、日独代表のプレゼント交換、井田建群群馬県国際課長をはじめその他有志のスピーチ等拍手、歓声の連続で、大きく日独交流の輪が広がりました。

翌15日8時30分、伊香保町提供のマイクロバスで出発、日本温泉資料館にて木暮副会長のご説明を伺い、今年は異例の早咲きのため期待した観桜には間に合わなかった為、自衛隊十二旅団の横を素通りして、急遽箕郷町中野の救世真教迄足を伸ばし、鐘撞山を背にした境内のしだれ桜、寒桜、散りかかる染井吉野等の眺望を楽しみ、新井会長始め信徒の皆様心暖まるもてなしの数々を受け感謝して山を下った。(f3)

群馬会館にて昼食の後、県庁を表敬訪問、高山副知事に、アメルンクご夫妻、花井・織田日独協会常務理事、福田日独評議員、宮藤局長、ぐんま日独平形会長、佐藤・対馬・木暮・島田各副会長、鈴木事務局長、飯塚常任理事の各位がお会いし懇談、報告した。

新幹線で帰られる東京からのお客様を高崎駅でお送りするその待ち時間を、古井戸駅長のご配慮により新幹線特別来賓室での接待に感激し、改札口でのAuf Wiedersehen!と手を振りながらのお別れとなった。(井口 實 記)

Dr.ゲロルド・アメルンク講演 駐日ドイツ連邦共和国大使館一等参事官・文化部長

Grüßwort aus Anlaß der Jahresversammlung
der JDG Gunma am 14./15. April 2002

Sehr geehrter Herr Hirakata,
sehr geehrte Mitglieder der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Gunma,

Es ist für meine Frau und mich eine große Ehre, heute aus Anlaß Ihrer
Volversammlung Ihr Gast sein zu dürfen.

Dies ist für uns auch deshalb ein Privileg, weil eigentlich Botschafter Schmelgelow
und seine Frau heute an dieser Stelle stehen sollten. Der Botschafter bedauert
zuletzt, daß er wider Erwarten nicht rechtzeitig von einer Dienstreise nach
Deutschland zurückkehren konnte, um heute bei Ihnen zu sein. Er hat mich
gebeten, Ihnen allen seine herzlichen Grüße auszurichten und Ihnen für Ihre
diesjährige Volversammlung viel Erfolg zu wünschen.

Dies ist unser erster Besuch in der Präfektur Gunma. Nach unserer Ankunft haben
wir bereits das Chanson-Haus und das Skulpturenmuseum besichtigt. So haben
wir schon einen ersten Eindruck von dem lebendigen kulturellen Leben in Ihrer
Präfektur bekommen. Insbesondere aber sind wir tief beeindruckt von der
Gastfreundschaft, mit der wir hier empfangen worden sind.

Es ist mir an dieser Stelle ein besonderes Bedürfnis, Ihnen, Herr Hirakata, und
darüberhinaus allen Mitgliedern Ihrer Gesellschaft meinen herzlichen Dank für ihr
großes Engagement zur Förderung des deutsch-japanischen Austauschs
auszusprechen.

Die Deutsch-japanischen Gesellschaften spielen eine Schlüsselrolle bei der
Festigung und Weiterentwicklung der Beziehungen zwischen unseren beiden
Ländern. Diese Beziehungen sind traditionell sehr eng und freundschaftlich. Ich
glaube, man kann sogar sagen, daß Deutschland und Japan durch eine
besondere kulturelle Affinität miteinander verbunden sind. Ich bin immer wieder
erstaunt, wie gut sich viele unserer japanischen Freunde in der klassischen
deutschen Literatur und in der deutschen Philosophie auskennen und wie viele
Liebhaber klassischer deutscher Musik es in diesem Lande gibt.

Dennoch bedarf es in unserer Zeit der Globalisierung und der raschen
gesellschaftlichen Veränderungen in unseren beiden Ländern großer
Anstrengungen, um sicherzustellen, daß die deutsch-japanischen Beziehungen so
eng und lebendig bleiben, wie in der Vergangenheit. Und gerade deshalb ist Ihre
Arbeit so wichtig.

Sie fördern durch Ihre Aktivitäten die Kenntnisse über Deutschland und das
Verständnis für unser Land in Japan. Vor allem aber wirken Sie durch Reisen Ihrer
Mitglieder nach Deutschland und durch die gastfreundliche Aufnahme deutscher
Besucher in Gunma daran mit, das große Netzwerk der persönlichen
Beziehungen zwischen unseren beiden Ländern noch enger zu knüpfen.

Als besonders wichtig empfinde ich es, daß Sie durch Ihre Arbeit auch junge
Menschen aus Deutschland und Japan einander näher bringen. Wir leben in einer
Zeit, in der die Dominanz der englischen Sprache weltweit immer stärker wird. Die
junge Generation überall in der Welt orientiert sich in vielerlei Hinsicht an den
USA.

Es ist daher viel wichtiger und zugleich schwieriger als früher, die Jugendlichen in
Ländern wie den unseren füreinander und für die Kultur und Sprache des jeweils
anderen Landes zu interessieren. Eben dies aber muß unsere vornehmste
Aufgabe sein, wenn wir die deutsch-japanischen Beziehungen so eng und
lebendig erhalten wollen, wie sie es traditionell sind. Hier sehe ich die große
Herausforderung für eine Gesellschaft wie die Ihre in den kommenden Jahren.

Ich wünsche Ihrer Gesellschaft weiterhin viel Erfolg für Ihre wichtige und schöne
Tätigkeit, und Ihnen auch persönlich alles Gute.

Abschließend möchte ich mich – auch im Namen meiner Frau – nochmals ganz
herzlich für Ihre Gastfreundschaft bedanken.

Dr. Gerold Amelung

2002年4月14日 ぐんま日独協会大会挨拶文…………… (f5)

拝啓、平形様、ぐんま日独協会会員の皆様
この度、ぐんま日独協会総会にお招き頂まして、私の妻と共に大
変な光栄に存じます。
今回は私達にとりまして、ひとつの特権を頂いた訳でございます。
と申しますのも、もともとドイツ大使であるシュミーゲロー氏とそ
の御夫人が今日ここに立つ訳であったからです。大使は予定通りド
イツへの出張から帰って来ることが出来ず、この場へ出席なかった
ことを大変残念がっております。彼は私にここに御出席の皆様には
心よりの御挨拶と今年の総会の成功を願っていることを申し伝え
る様、承っております。

今回は私達の群馬県へのはじめての訪問となりました。私達の到着
後にシャンソン館と彫刻美術館を訪問いたしました。これは私達は
群馬県の活き活きとした芸術性を感じる最初の印象となりました。
しかしながら、特に私達が深く印象に残ったのは、ここで私達が受
けたあなた方の歓待であります。

この場をお借りして、平形会長をはじめとする会員の皆様には、あ
なた方の大きな活動である独日交流の促進に対して、特に心より御
礼を申し述べます。

独日の交流は、私達のお互いの国々の間の関係の定着と成長一つの
鍵としての役割を果たしております。この関係は伝統に非常に親密
で、そして友好的であります。私は、人々もそう言う様に、ドイツ
と日本は特別な親和性でお互いを結び付けているのだと思います。
私はいつもながら沢山の私達の日本の友人達が、ドイツ文学やドイ
ツ哲学を良く理解し、そしてドイツのクラシック音楽を愛している
ことに驚いております。

それにもかかわらず、私達の時代には私達の国の国際化と急激な交



(f1)

流の変化により、独日関係を今迄と同じように親密に、そして活き
活きとしたものに保つ為には大きな苦勞を必要とします。そのため
にも、今回のあなた方の活動は非常に重要なものであります。

あなた方はこの活動を通して日本での私達の国であるドイツにつ
いての知識と理解を促しているわけです。しかしさらに言えば、あ
なた方会員がドイツへの旅行を通し、そしてまた群馬でドイツ人へ
の歓待を通して協力し合うことによって、この大きな個人的なネッ
トワークが私達の国の関係をより身近なものに結び付けていること
であります。

私が特別に重要なこととして、あなた方の活動を通してドイツと日
本の若い人々もお互いに密になりつつあるということを感じており
ます。私達は国際的に益々強さを増す英語優位の時代にあります。
世界中の全ての若い世代は多種多様な観点からアメリカ合衆国に向
方を定めます。

そういったことから、両国の若者達は私達お互いのために、そして
各々の他の国の文化や言葉に興味を持つことが以前に比べより重要
で、かつ同様に難しくもあります。ちょうど、私達が独日の関係を
より近付け、そして活力の溢れるものとして、伝統的に維持するつ
もりであるならば、それは私達の最も大切な課題であることに違
いはありません。これについて、私はあなた方の今後何年間かのこの
協会のための大きな挑戦であるとみています。

私はあなた方協会の重要で素晴らしい活動に対し今後とも大きな成
功をお祈りしております。そしてあなた方個人的にもお元気で、ご
きげんよう。

最後に、私と私の妻から私達への歓待に対し、今一度心よりのお礼
を申し上げたいと思います。(井上 見良訳)



(f1)

日独協会を背負った人々 (要旨)

(財)日独協会常任理事

花 井 清

ぐんま日独協会活動の源泉は、上州の風土が醸した“Gemütlichkeit”(くつろぎ)と“Hospitalität”(歓待)の中で、当地をこよなく愛したベルツ、スクリパ両博士や、高崎の少林山・洗心亭でナチ亡命生活を過ごしたブルーノ・タウトなどが残した日本文化海外紹介の豊かな文化遺産、日独文化交流の足跡等に発生するものといえよう。

本題の前史として、まず日独交流の源流というべき第1回渡独日本留学生を列挙する。

即位間もない明治天皇は欧米学者招聘(お雇い教師)を有為な青年の先進国派遣を命じ明治3年(1870)10月大学東校(東大医学部前身)大助教石黒忠恵(のち子爵、陸軍軍医監)等の人選で、大学東校(☆3名)、長崎医学校、大阪医学校等より下記の第1回ドイツ(普國)差遣政府留学生が決定し、4年(1871)4月ベルリン着。

☆池田謙斎 長岡藩となりの新発田藩士族(藩主溝口氏)、大学東校(東大医学部前身)出身。入澤達吉(下記3傑の一人)の叔父。のちの東大医学部総理、男爵、宮井顧問官。

相良玄貞 佐賀藩(鍋島公)家臣。のち医学者。

大石良己

☆長井直安(長義に改名)阿波藩(峰栗賀公)、大学東校出身。1871年6月7日ベルリン着。(下記3傑の一人)

☆大澤謙二 大学東校出身、のちの東大教授(生理学)、後述。

山脇 玄 越前(松平春嶽公)家臣、後年政官界に転じ行政裁判所長官、貴族院議員。

岩佐 巖

木脇 良 薩摩

荒川邦藏 長州のち官界に転じ自治制度の創設に尽力。

荻原三圭 土佐、山内公侍医。京都医学校の創立者。

佐藤 進 (滞在中)佐倉藩 順天堂出身。陸軍軍医監、第三代順天堂主、男爵。

青木円藏 (滞在中)長州。のちの駐独特命全権公使、外相。日独協会会頭、子爵。

然るに明治5年頃から米英仏独への留学が流行し、およそ500~600人ともいわれたが、「官費留学生の玉石混交ひどく、官軍の報酬留学生にはABCの字を知らぬ連中も多く、明治6年(1873)12月、文部省は留学給費を打ち切り、欧米に大学四等出仕九鬼隆一

(のちの秘密)顧問官を派遣して全員一旦引上げさせ、出来のよい者は試験の上、再留学ということになった」(上記の池田謙斎、大澤謙二の回顧録より)。だが上記の長井直安(長義)は命に後さず、独り私費留学を続け(14年間)、大澤は再留学(官費)を果たした。……………(f4)

日独協会の変遷

初代日独協会設立 明治44年(1911)10月30日

停 会 大正3年(1914)8月 (第一次大戦勃発のため)

再 興 大正15年(1926)10月

解 散 昭和20年(1945)8月 解散(独日敗戦のため)。

(財)日独協会の三傑

1. 初代日独協会理事長 東大教授 理学博士Dr.phil.長井長義(1845・1929)。薬理学者(Pharmahologie)、1885年エフェドリン発見、女子教育功労者、テレゼ夫人の内助の功、日本薬学会会頭。長男は戦前の駐独大使領商務参事官総領事、弁護士、日独協会理事、長井亜歴山(故人)、次男 東大薬学部科講師長井維理(故人)、孫はノルトライン・ウェストファーレン州日独交流英会副会長、日独協会評議員、長井貞義。
2. 再興日独協会理事長 東大名譽教授 宮内省侍医頭 入澤達吉(1865-1938)。明治10年(1877)東大医学部市科入学(14歳)以来、赤門生活60年。入澤内科で名声を博す。ベルツ門下で草津「ベルツ博士記念碑」撰文、明治23(1890)3月~27年(1889)ドイツへ私費留学。池田謙斎(上記)の甥。孫は医師入沢諒吉(川崎市)(生前の声、昭和57年テープで再現)
3. (財)日独文化協会理事長(第三代)ウィーン大学名誉評議員、三井高陽(1900-1983)、昭和27(1952)、(財)日独協会再建者、同会長(1965-83)、三井南本家10代目当主(男爵)正子夫人は一条実孝公爵(昭憲皇太后のお里)長女、切手の殿様(世界的なフライアリスト 三井切手コレクション5万点)昭和17年(1943)、東京・麹町三番町自邸の一部680坪の「日独文化会館」を建設寄附(空襲で焼失)。戦前、戦後にわたり、ドイツ、オーストリー、イタリア、ハンガリー、フィンランド等に、日本文化研究基金や実家の文化財寄付の功労者。(生前の声、昭和57年テープで再現1。) (f4)参照

アメルンク文化部長からの礼状

(井上敏子訳)

Tokyo, den 17. April 2002

Sehr geehrte Frau Dr. Hinatake,
mit meiner Rückkehr nach Tokyo möchte ich nicht nur Ihnen, sondern auch ganz herzlich für die Gastfreundschaft am Anfang der Jahresversammlung der japanisch-deutschen Gesellschaft Gomma an danken. Mein Frau und ich waren tief beeindruckt von Ihrer Bereitschaft und dem der Mitglieder der Gesellschaft sei die Höhe der Besuche zunächst unsere beiden Ländern. Wir werden unseren Besuch bei Ihnen in der nächsten Gomma immer in bester Erinnerung behalten.
Ich würde sehr dankbar sein, wenn Sie uns bei der nächsten Jahresversammlung persönlich begrüßen würde. Ihre herzlichste Grüße und von Gomma, Herrn Strocher.
Mit dem besten Wunsch für eine weitere erfolgreiche Arbeit der JGG Gomma und für die persönliche Weltorgane verbleibe ich
Freundlichst
Gerold Amelung

拝啓

この度のぐんま日独協会年次総会への出席に際しましては、平形会長様ならびに会員皆様より多大なるご接待を賜りましたこと、東京に戻りましてから、改めて衷心より御礼申し上げます。

私の妻と私は、会長様、そして会員皆様の我々日独両国間関係へ熱心なご尽力に対しまして、深い感銘を受けました。

私友は、群馬県に皆様をご訪問させていただきましたことを、最良の思い出として留めて参ります。

シュミーゲロフ大使は、本日、ドイツより帰国してございまして、貴、総会につきまして報告いたしました。貴殿からのご挨拶もお伝えいたしました。と共に、シュミーゲロウ大使から貴殿に、来年の年次総会には個人的に参加をさせていただきたいとの要望がありましたことをお伝え申し上げます。シュッテカー公使からもくれぐれもよろしくお伝えくださいますとのことでございます。

終りに、ぐんま日独協会のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、平形会長様ご本人様のご健康を心より祈念申し上げます。

敬具

Gerold Amelung

ドイツ交友録

前橋市 佐藤進一

ドイツとの交流はベルリン独日協会会長ハーシュ博士から始まった。前橋へも立寄ってくれたり、私をベルリンへ招いてくれた。そのベルリンでメッシング夫妻は私を歓迎し宿泊を提供してくれた。きえ子夫人は岩手県出身で息子のオラフ君は現在東京で日独交流の機関へ勤め、時折我が家を訪ずれる。

フランクフルトのシュミット夫人はホームステイ委員会の代表者で、日本各地に多く友人をもっている親日家である。我が家へ泊まったこともあり、私も亦宿泊したことがある。嫁のてる子さんは千葉県出身である。

インターコンチネンタルホテルのシュテール社長は地域の会長をしており、カヨ子夫人とはアメリカ留学中知り合った仲である。

ミュヘンのクリンゲ会長は製薬会社の経営者であり又終身上院議員である。俳句を愛し自ら俳句そっくりの三

行詩を作り、日本語訳をつけて出版している。絵本も良く画き（油画の他水墨画も）画集を印刷すると言う日本通である。本業の会社は大阪の藤沢製薬と業務提携している。

パイロットのヌッサー医師の所へ2晩泊めて貰った事があるが、ハイディ夫人と2人の娘がおり2人共医学生である。シュトットガルトのシューレ氏は日本語を混ぜた手紙を呉れる親日家でもある。フライブルグのマンズハルト夫妻は環境浄化運動にたずさわる人である。又北ドイツノイブランデンブルクの新聞記者ベルント君とは10年以上の付き合いで、国内や欧州事情をいつも知らせてくれる。

以上紙面の都合で名前を上げるだけに止めるが、これらの人々との交友を詳しく述べればきりがないので割愛する。(終り)

日独協会2002年の思い出



(f3) 教正眞教にて観桜



花井清先生 (f4)



(f4) 入澤達吉先生のベルツ先生記念碑拓本



Dr. Gerold Amelung (井上敏子通訳) (f5)



(f1) 点茶(白波瀬社中)



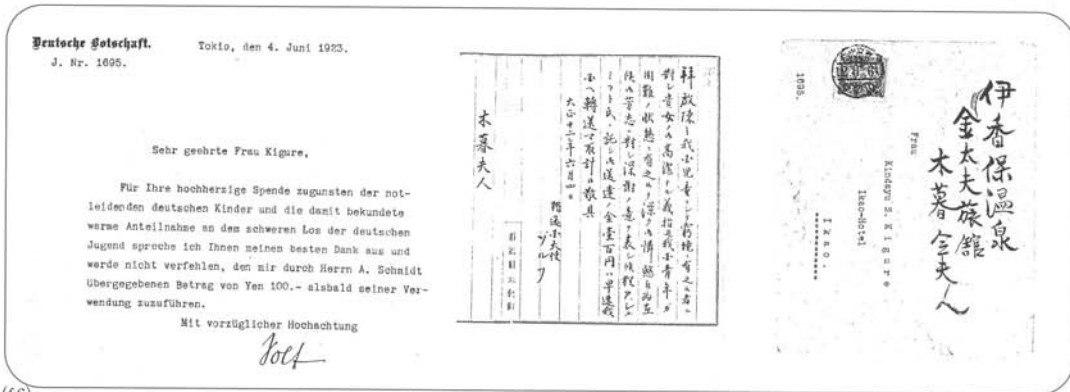
Dr. G. Amelungと木暮治一茨川市長 (f1)

大正時代にも義援金 駐日ドイツ大使からの礼状見つかる

ぐんま日独協会副会長
木暮金太夫

最近書類を整理していて大正時代のゾルフ駐日ドイツ大使から木暮ケイ宛の書簡を見つけた。木暮ケイは筆者の祖母である。平成14年より80年前という大正12年であり、第一次世界大戦終決後間もない時代である。この戦争でドイツは破れ、ドイツ国民の生活は疲弊していた。祖母は戦後のドイツの状態を憂いその頃来館していたドイツ人・シュミット氏に託してドイツの児童及び青年の困難な状態を援助するため寄付金を贈った。この行為に対する駐日ドイツ大使からの感謝状がこの書簡であっ

た。
伊香保温泉には明治時代よりベルツ博士をはじめ多くのドイツ人が来香している。特に金太夫及び金太夫のイカホホテルには西洋人の宿泊者が多くそのうちにはドイツ人も多数来館している。シュミット氏もそのうちの一人であった。このように日本とドイツが不幸な関係にあった時代においても祖母のごとく日独親善に尽した行為はぐんま日独協会員としても誠によろこばしいことであり、記憶にとどめておきたいと思う。(獨文・訳文参照)



(f6)

北ドイツ災害へ義援金

～ぐんま日独協会からも為替送金～

8月ドイツ東部(ドレスデン)北部エルベ・ムルテ川流域、オーストリア、チェッコ・スロバキヤ各国を襲った有史以来と言われる大洪水に対し、8/18EUは「天災募金」約580億円の積立計画を発足させます。それより先8/15ザクセン州日独協会の募金のお願いが(財)日独協会から発せられ、ぐんま日独協会では8/20¥30,000を振替を通じて、同協会へ送金した。(因みに送料は¥6,500)、9月末全日独協会計¥1,179,322、日独友好議員連盟¥2,000,000であります。(右表参照)

ドイツにおける洪水被害に対する寄付金

(平成14年9月30日現在)

財団法人 日独協会	
(財)日独協会	117,360円(1,000ユーロ)
岩手日独協会	18,226円
仙台日独協会	202,000円
ぐんま日独協会	30,000円
茨城県日独文化協会	260,000円
蔵・リンデン市民交流協会	100,000円
長岡日独協会	11,736円(100ユーロ)
福井県日独友好親善協会	50,000円
名古屋日独協会	300,000円
京都日独協会	20,000円
大阪日独協会	50,000円
鹿児島日独協会	20,000円
合 計	1,179,322円
日独友好議員連盟	2,000,000円

俳句

(高崎 小林 和男)

百花まで 数えし一樹 紅牡丹

一山の崩るるほどに蟬時雨

夕月のあかみを帯びて落ちにけり

(安中 井口 桐花)

ドビュッシー弾く手あやなす秋舞台

薔薇色のドレスの裾の秋意かな

住み古りし 家をかこあり 青山椒

SommerTreffen

—夏例会—

(幹事 角田 勤)

沼田市、ペラ・ヴーターに植えて南ドイツ、フュッセン市と姉妹都市の沼田市民の皆さまを中心に県下各地から日独協会有志を通して、沼田ドイツ語会のメンバーであられた、名城大学の長沢崇雄助教授をお迎えして「日本とドイツの国民性の相違点を探る」講演、(約300人)懇親会(90人)が開催された。

長澤先生 講演「日独国民性について」要旨

ドイツの国民性についてキーワードで挙げるとすると、だいたい次のようなものになるのではないかと思います。

「勤勉、頑固、清潔好き、几帳面、時間厳守、秩序好み、好戦的、お植え服従性、徹底癖、お節介焼き、親切、粗野、けち、放浪性、散歩好き、森林への憧れ、薄暗がり好み、居心地よさへの執着」などなど。

今回はこのうち、ドイツ人を形作る要の特徴のように思われる何点かに絞って、お話を進めたいと考えております。

ドイツの徹底性ということが、ドイツ人に関してよく言われます。これは、良いことにしろ、悪いことにしろ、いったんことを始めたとなったら、とことん徹底的にやるという、場合によっては「悲劇的な」ドイツ人のあり方を象徴的に表現した物言いです。「徹底癖」で私に思い当るのは、2002年1月1日を期して、それまでの通貨ドイツ・マルクから欧州共通の通貨ユーロへの切り替えが始まったという、一大イベントです。慣れ親しんだマルクへのこだわりもあったでしょうに、ユーロへの移行は至極あっさりで行なわれました。いったんことが決まったら、とことんやり抜くという「徹底性」がここにも表れていると感じられました。

こうした「徹底性」は一方で、雑然とした状態や混乱を嫌うドイツ人の傾向(これをドイツ文学者の小塩節さんは「整理本能」と読んでおられますが、無事に「明晰

さ」を求める傾向と分かちがたく結びついていると思います。徹底癖のあるドイツ人にとって、「明晰である」とことと「秩序だっている」とことは常に車の両輪であり、何事にも「明晰な秩序がある」という点が肝要なのです。思うに、この「秩序」に対する執着は、ドイツの人々の持つ「公(おおやけ)感覚」とでも呼ぶべきものと、密接に結びついているのではないのでしょうか。

ドイツ語で法のことをRechtと言いますが、これは同時に「権利」や「正しいこと、公正、正義」を意味します。ドイツ人にとって、裁判を起こして自らの権利を擁護し、実現することは、単に私個人の利益、いわゆる私益をはかることではありません。ここで重要なのは、「裁判を起こすのは、何も自分のためではない。社会・公共のためであり、正義のための戦いでもあるのだ」という点です。ここに、ドイツ人の「公感覚」がよく表れていると思います。この「公感覚」は、「自らの手で自らの権利を擁護する」という、いわば「エゴ(自我)の確立、自立」と、一方で「社会的公正と正義のため」という、いわば「私(わたくし)を捨てた理想主義」、大まかに言えば「リアリズム」と「アイデアリズム」とのバランスの上に成立するものなのです。

■第22代ハンブルク桜の女王メツァイ嬢の来日—小泉首相、大阪・香川・ぐんま各日独協会等表敬訪問

ぐんま日独協会会長 平形義人

3月24日(土)午後4～5時、渋川市の街外れの拙宅(当会事務所を置く)に第22代ハンブルク桜の女王アンネマリー・メツァイ嬢と、今年の日本の桜の女王・東京美人の松丸友紀嬢を迎えた。メツァイ嬢は背の高い髪も眼も黒い理知的な27歳のハンブルク出身、日本学研究学生であり、素直な八頭身の美女である。例年になく開花の早かったお陰で恰もよし樹齢百年の枝垂れ桜は満開で、隣の緋寒桜と艶を競っている。その下に日独両国旗を立てて壇を作り、両嬢の間に私は紋付羽織袴で、小泉総理の「無信不立」(信無くば立たず)と書かれた扇を開き持って立ち、折から集まった日独の小旗を振る会員有志約50名と共に“Herzlich Willkommen!!”

(f0)

トピックス

中沢晁三(ぐんま日独協会顧問)

歌碑建立除幕(2002.9.12)

草津町運動茶屋公園道の駅地内に市川絃一郎、布施直美、横山秀央が発起人となり、ベルツ博士の研究者として、今年歌碑とピーティツヒハイム・ピッシンゲン市の姉妹都市40年目を迎えた功労者でもある晁三氏の歌碑「月よみの冴えて寂しきこの出湯に住みつきたりし祖を思ふ」が建立除幕された。(協会から平形、島田、対馬、木暮、鈴木(克)、沖津、横山夫妻が出席)

大意一壺々と冴わたる月光のもと、神靈にみちびかれて、絶えることなく湧き出でるこの山の出湯に、永住の地を求めた遠い先祖たちの心を、私もこころからおもう。

月よみの冴えて寂しきこの出湯に住みつきたりし祖を思ふ 晁三



(f7)